


# 料練成鍛尾り



56/220

"ニ上山キリ"

ISURUHANJO 



平成**23**年 **400**号 記念特集号

## 目 次

四百号発刊にあたり	理事長 山崎 孝之	1
四百号発刊の喜び	館 長 野田 武	1
開設教室紹介		2
平成二十三年元朝祭 年頭の言葉	山崎理事長	4
第三七回文化祭 盛大に行われる		4
第五六回小倉百人一首 伏木かるた大会		5
各教室活動だより		5
故飯田峯兆先生夫人 富子先生ご逝去		6
元理事・副館長 柔教室錬成師範 栢嶋 司氏ご逝去		7
編 集 後 記		7
第三八回マーチングバンド・パトントワーリング全国大会スナップ		8

※表紙画は四十周年を記念して鶴谷登画伯が  
特別に書かれたものです。

題 「二上山より」

## 四百号発刊にあたり

理事長 山崎孝之

昭和三十年代、四十年代と日本は鱈上りに経済成長を遂げましたが、当時、錬成館の創始者故飯田峯兆先生のお宅で、日本の将来について研鑽を深めていた私たちは、日本の良き伝統文化や精神を継承していく「愛の実践道場」として、昭和四十一年五月二十九日に伏木錬成館の開館式を行い、六月一日より、柔、かるた、詩吟、ロシア語、中国語、英語の六教室で青少年健全育成と市民のための生涯学習の振興を始めました。

そして機関紙の発刊については開館当初より提案がありました。が、慎重に考慮することとし、館活動が軌道に乗り始めた同年十一月に再び発刊の強い要望があり、①館活動の広報、②職員・会員相互の親交、③職員・会員の自己研鑽の三つを目的とし、役員会で認可され、編集委員を選び、十一月末に、ガリ版刷りの『伏木錬成館だより』として日の目を見たのを昨日のこのように思い出しております。

当時、私は館長を拝命し、「発刊に寄せて」を寄稿させていただきました。二号からタイプ印刷、三十号から故飯田峯兆先生の論説連載、三十八号から故鶴谷登師範の絵を表紙に掲載すべくカラー印刷としました。

記念特集号として、十号（四十二年九月）、二十号（四十三年七月）、百号（五十年三月）、二百号（五十八年八月）、三百号（平成四年二月）を発刊しており、今回は四百号となるわけです。

これを機に装い新たにA4版にして、皆様に更に親しまれ、愛される広報紙にしたいと思います。

## 四百号発刊の喜び

館長 野田 武

『伏木錬成館だより』の歴史は、伏木錬成館の歴史でもありません。

創館以来の館の行事や各教室の活動を余すところなく掲載してきました。

特に節目にあたる、開館記念特集号（三周年、四周年、五周年、六周年、七周年、八周年、十周年、十三周年、十五周年、二十年、二十五周年、三十周年、四十周年）や二十年史（昭和六十年）、三十年史（平成八年）、四十年史（平成十八年）、新築落成特集号（昭和四十七年）など喜ばしい発刊のほか、栗田吉郎初代理事長、服部忠夫初代副理事長、佐賀徳太郎二代理事長、創始者飯田峯兆先生、鶴谷久雄三代理事長、塩谷孝一四代理事長、浦田二代館長、鶴谷登四代館長や数名の職員の追悼号を発刊するなど悲しいこともありました。

編集長として牧野貞夫副理事長や、宮森恵都子書道師範が活躍された頃は、時勢に関する論陣を張り、読者から賛同を得たこともあります。

今回四百号を機に、従来のB5版からA4版に衣替えをし、読みやすいようにしました。

ここ最近では年二〜三回の季刊紙として発行していますが、日ごろの活動報告のほか、生涯学習や青少年健全育成の指針を示せたらと思っています。